

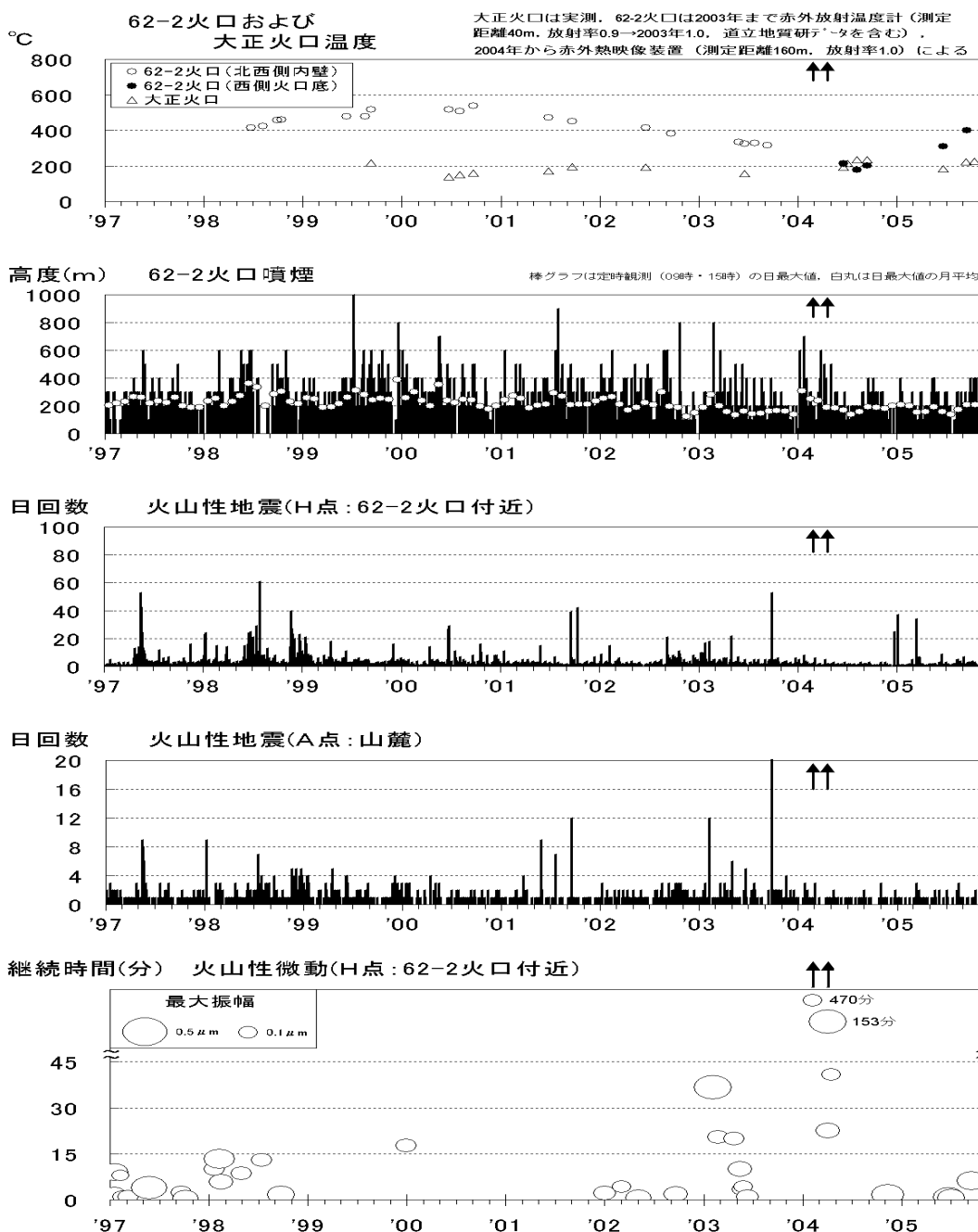
十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定されます。火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 200 mで経過しました。



最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2005年10月31日) 印はごく小規模な噴火

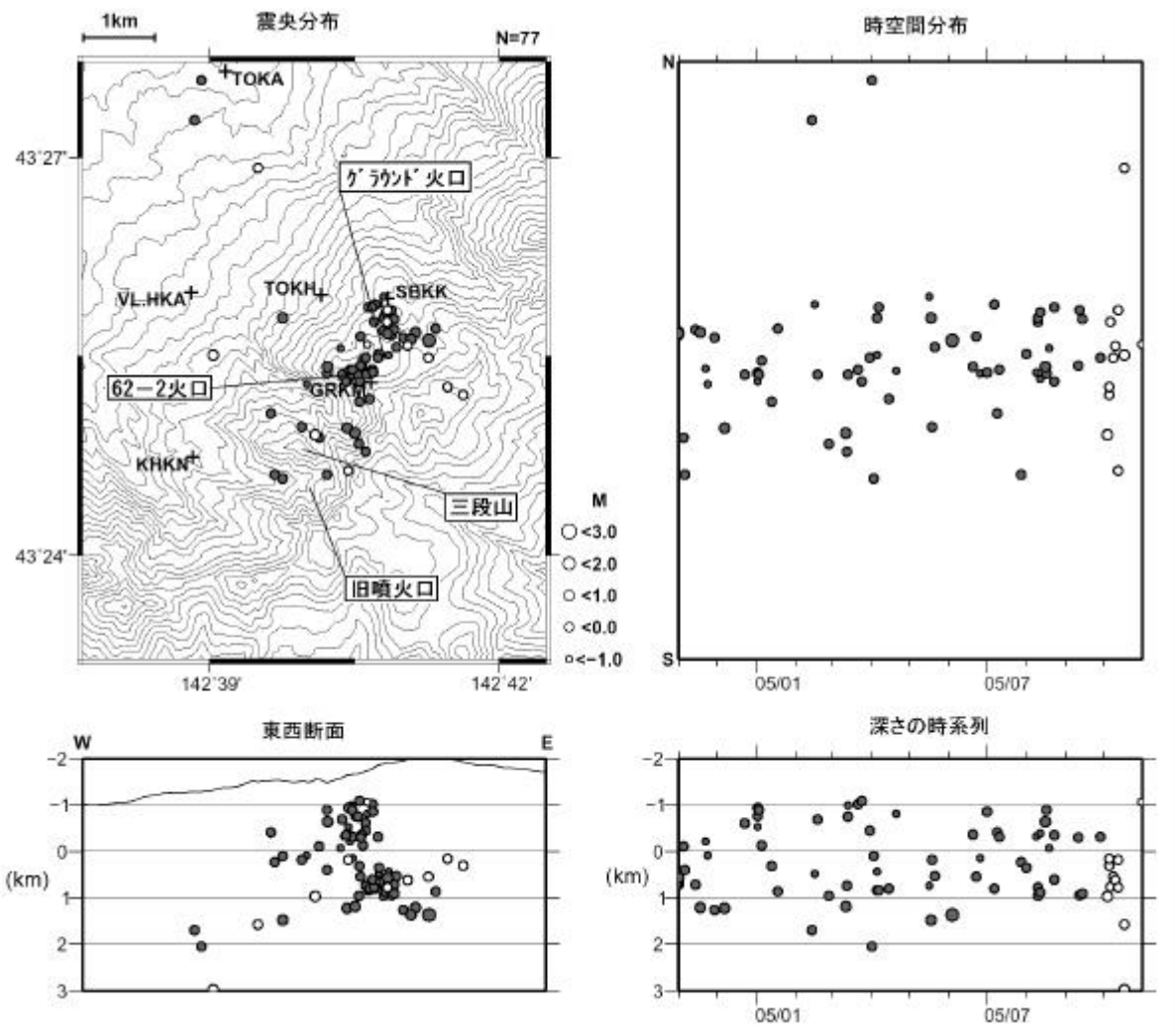
十勝岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。

3 地震および微動の発生状況

今期間の火山性地震の回数は1日あたり0~4回と、少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数 (H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点)

2004~2005年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数H点	20	30	60	20	86	14	14	26	17	41	29	25
地震回数A点	7	4	4	2	11	4	5	3	4	13	2	6
微動回数H点	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0



十勝岳の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点、気象庁と北海道のデータを使用)

印は今期間(2005年10月1日~31日)に求まった震源を示しています。

印は前期間までの11ヶ月間(2004年11月1日~2005年9月30日)に求まった震源を示しています。

震源はグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海面上1km~海面下1km程度)に集中しています。今期間に求まった震源はこの領域内の他、その周辺にも分布しています。

震源分布図の説明

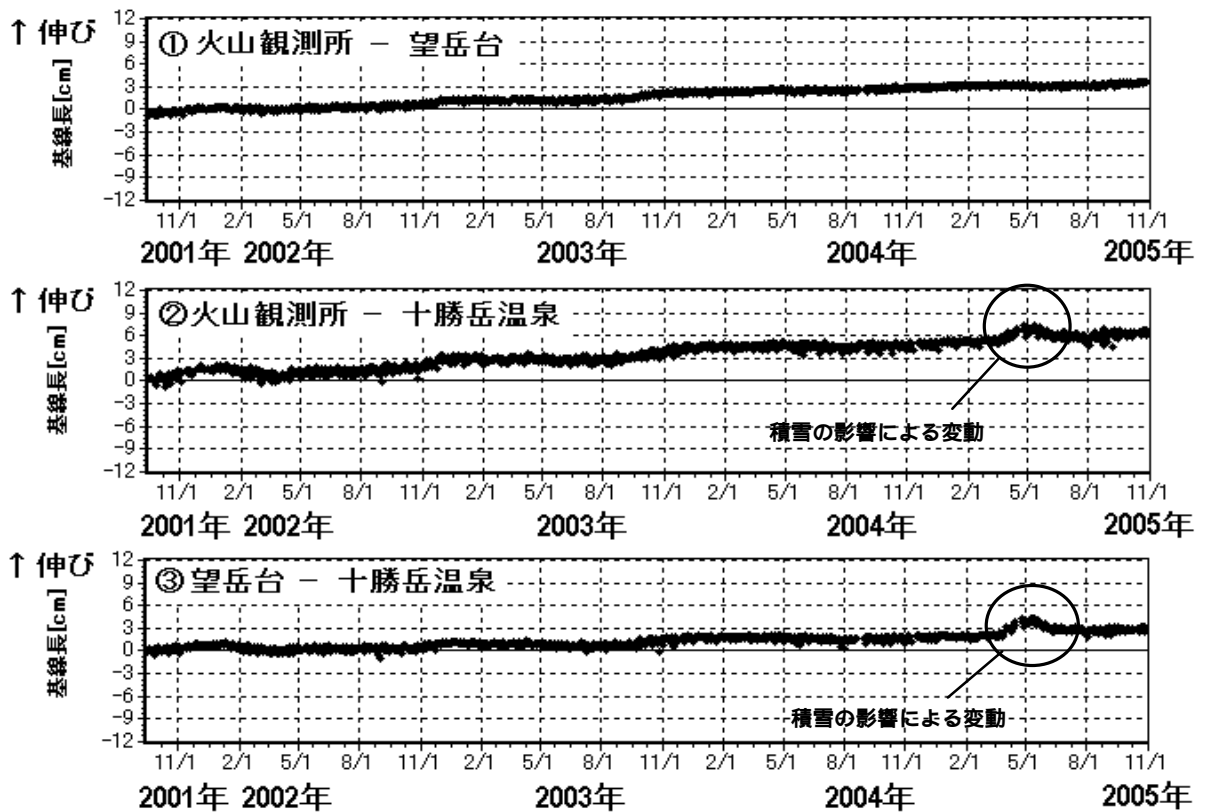
東西断面 震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

時空間分布 震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

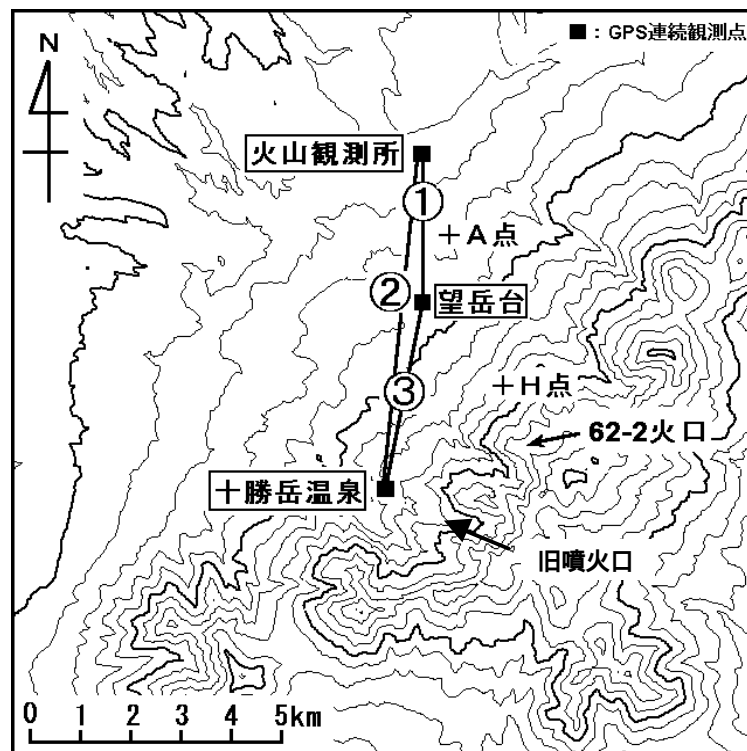
深さの時系列 時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



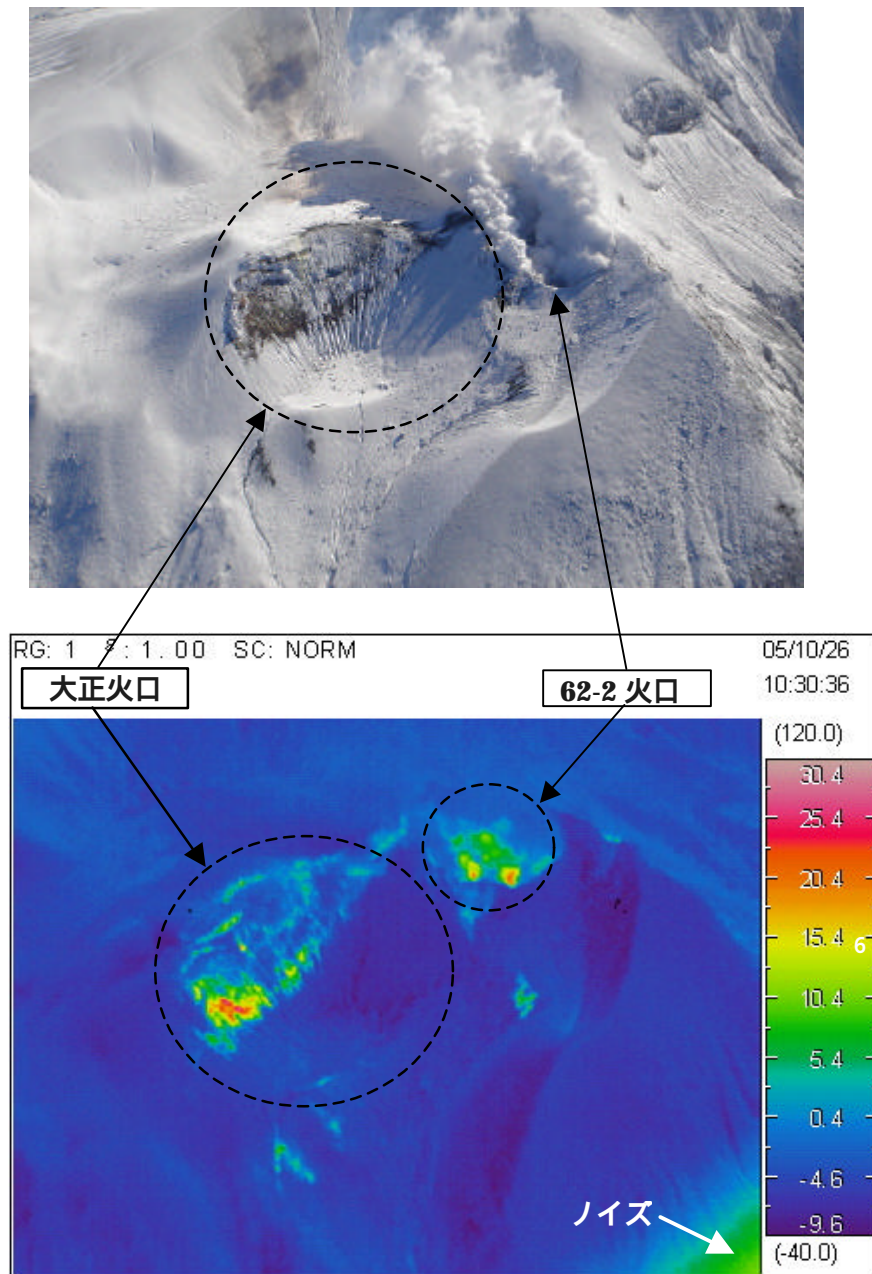
基線長変化(2001年9月13日~2005年10月31日)



5 上空からの観測結果

10月26日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、62-2火口、大正火口、旧噴火口などの状況にこれまでと比べて特に変化は見られませんでした。赤外熱映像装置*による観測でも、各火口やその周辺の温度分布に変化は見られませんでした。

62-2火口からは、二筋の白色噴煙が混合しながら高さ200m程度まで立ち上り東へ流れており、赤外熱映像装置による温度分布でも、二筋の噴煙に対応するように火口内に2カ所の高温部分が認められました。



上：北西側上空から見た62火口群・大正火口の写真
下：赤外熱映像装置による火口およびその周辺の温度分布
(右下部分はノイズ)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。